

「神の国は来ている」

2015年08月06日

ルカによる福音書 11章 14節～23節。 イエスは悪霊を追い出しておられたが、それは口を利けなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口の利けない人がものを言い始めたので、群衆は驚嘆した。しかし、中には、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者や、イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた。しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「内輪で争えば、どんな国でも荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。あなたたちは、わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだろうか。わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。しかし、わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。強い人が武装して自分の屋敷を守っているときには、その持ち物は安全である。しかし、もっと強い者が襲って来てこの人に勝つと、頼みの武具をすべて奪い取り、分捕り品を分配する。わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。」

主イエスは悪霊に取りつかれ口が利けなくなった人から、悪霊を追い出し、口が利けるようにした奇跡を行った。これを見た群衆は驚嘆した。その中には、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者、また、イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者たちがいた。天からのしるしを求める者は悪霊を追放できるのであれば、天から火を降らせることもできるだろうと思った者たちであろう。問題は「ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言った者たちである。この者はおそらくファリサイ派の者たちであろう。主イエスが驚嘆する奇跡を行い、民衆の心を捉えていることに嫉妬し、主イエスの力は悪魔から来ていると誹謗したのである。主イエスは彼らの心を見抜いて「内輪で争えば、どんな国でも荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。あなたたちは、わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだろうか。わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる」と言われた。悪魔でも内輪もめをすれば、成り立たないことを知っており、そんなことはしない。私がベルゼブルによって悪霊を追い出していると言うのなら、お前たちは何の力に立っているのか。悪霊を追い出すことが全くできないではないか。自分自身が自らを裁き、無力を証明している。

主イエスは更に、「わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ」と、神の指が悪霊を追放し人間を回復する「神の国」は既に来ていると宣言された。来ているにもかかわらず、それをベルゼブルのせいにしたり、しるしを求めたりして「神の国」を認めない人々を諷めたのである。誰よりも何よりも強い神が共にいて、悪魔の武具を無力化してくださり、全てが安全に守られている。この「神の国」の到来は目の前では見えなくとも、これを信じ、望んで生きることが「福音」に与ることである。

パウロはローマ書 8章 31節 b で「神が味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか」と書いている。共にいてくださる神の傍で「神の国」の宣教に参加できれば、こんな嬉しいことはない。